

令和6年度第1回滋賀県観光事業審議会 議事概要

1 開催日時、場所

日 時：令和6年11月20日（水）10:00～12:00

場 所：滋賀県庁危機管理センター1階会議室1

2 出席委員（敬称略、五十音順）

委 員： 磯部 修、上田 未来、植西 祐一郎、小磯 亮、古賀 裕介、竹平 陽、
野村 ゆき子、廣岡 裕一、峯俊 智穂、矢野 由香

オブザーバー：江川 寛、後藤 孝行、西川 直治

3 議題等

■ 林商工観光労働部長挨拶

■ 定足数の確認

■ 新任委員の紹介

■ 議題（1）令和5年度「シガリズム観光振興ビジョンアクションプラン」の評価について

事務局より、令和5年度「シガリズム観光振興ビジョンアクションプラン」の評価について説明。

（磯部委員）

県民の滋賀県観光の推奨意向度について、令和6年度の目標値が100%とかなり高いが、それに対して令和5年度の実績が77%であり、他の指標と比べるとまだ弱いと思う。各種事業の取組は進んでいる中、肝心の受入側の県民の意識も同時並行的に養っていくことが、持続可能な観光という観点からすると重要である。この点について今後に向けて分析したことがあればお聞かせいただきたい。

（北川係長）

県民の滋賀県観光の推奨意向度は、県のモニター向けのアンケートにおいて調査しており、おっしゃる通り100%と高い目標を掲げている。全ての県民が滋賀県に誇りを持ち、推奨してもらえそうな観光を目指していきたいということである。今後の推奨意向度を高めていくための取組としては、例えば今年9月から来年10月まで、西川貴教さんをアンバ

サダーに、万博等を見据えてキャンペーンを実施している。そうした取組を通して、事業者、県民、行政が一緒になって滋賀県の観光を盛り上げるとともに、そうした盛り上げの中で県民の皆さんにも滋賀県の観光に誇りを持ってもらえるようにしていきたい。

(小磯委員)

令和5年の観光入込客数に対する宿泊者数の割合が7.5%で、令和元年とほぼ同じ数字となっている。せっかく大河ドラマなどを通じて滋賀県にお越しいただいた方が、なかなか滋賀県で周遊して宿泊されないことは非常に残念である。宿泊者数の比率が変わらないことについて、どのような分析をして、今後どのように比率を上げていくか、お考えがあればお聞かせいただきたい。

(河崎シガリズム推進室長)

滋賀県の宿泊者数は8月がピークであり、その数はほぼアッパーまで達している一方で、冬の観光はとても弱く、どのように宿泊客を増やしていくかが課題である。宿泊客を増やすことで、観光消費額単価が一気に上がる。大手OTAである楽天トラベルでシガリズム体験付き宿泊プランを販売いただいております、普段よりワンランク上の近江牛が食べられる宿泊プランや陶芸体験ができる宿泊プランなどを販売することで、観光消費額単価を上げていきたい。また、インバウンドについては受入環境も重要である。特に滋賀県には外資系の大きなホテルがないことを踏まえると、丁寧なおもてなしができるホテルや旅館を増やし、よい口コミを増やしていきたい。文化観光を中心に、旅館、ホテル、一棟貸しの宿泊施設等の活用や、オーベルジュに力を入れていこうと考えている。ただ、コロナの影響で従業員の確保が難しくなったという宿泊施設もあるため、単純に宿泊者数を増やすよりも、宿泊単価を上げる取組を実施しながら、宿泊者数についても全ての月で8月のアッパーの人数まで上げられるよう取り組んでまいりたい。

■ 議題（2）令和6年度上半期の振り返りについて

事務局より、令和6年度上半期の振り返りについて説明。

(植西委員)

ここ滋賀の令和5年の売上が2億に迫るということだが、他府県の方は滋賀県の特産品の中でどのようなものに興味を持っていただき、どのようなものが売れるのか、お教えいただきたい。

(片山ここ滋賀所長)

近江牛や近江牛に関連したパン、サラダパンなどが、手軽に買えるため非常に多く売れて

いる。非食品では、夏の暑い時期は高島ちぢみのような、高額でも品質のよいものは東京でもよく売れている。

(峯俊委員)

首都圏在住の滋賀県出身の大学生へのアプローチというお話があったが、滋賀県から首都圏へ流出した大学生をどのように把握しているのか。

(片山ここ滋賀所長)

県内から首都圏の大学に進む学生は年間 150 人ほどいる。これは教育委員会を通じて調べており、どこの大学に通っているかも把握している。就職というフックがあると、大学2年生くらいの学生に対しては、大学によってはきめ細やかに対応していただけることもあるため、基本的には大学の学生課を通してアプローチしている。加えて湖国寮など、様々なチャンネルを使いながら、首都圏にいる学生に対してアプローチしていきたい。

(竹平委員)

滋賀県観光キャンペーン「いこうぜ♪滋賀・びわ湖」について、大阪駅のモニターでも西川貴教さんの映像が流れており、驚いたと同時に誇らしくなった。このキャンペーンの広告の対象エリアはどの辺りなのか、全国なら特にどこに力を入れているのか教えていただきたい。

もう1点、大河ドラマ「光る君へ」が非常に好評であり、今週から連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」も再放送されている。そうした中で、大河ドラマや朝ドラ、他のドラマのプロモーションに、今後どのように力を入れていくのか教えていただきたい。

(河崎シガリズム推進室長)

キャンペーンは全国をターゲットにしているが、それぞれのエリアで実施する事業を分けており、例えば東海地方では、万博と滋賀県での宿泊をセットにしたバスツアーを造成していただくと2万円を補助する施策をしている。また、今までなかなか滋賀県へ観光にお越しにならなかった埼玉・群馬・長野といったエリアからの誘客を図るため、北陸新幹線でのPRをしたり、最も観光客が多い近畿については、普段からお越しいただいている方々に対して、西川貴教さんやイナズマロックフェスなどと絡めてPRしたりしている。来年10月末までの長いキャンペーンのため、JRとも連携し、九州・四国からの誘客についても新しい施策を構築しながら取り組んでまいりたい。

(高木観光振興局副局長)

映像作品のプロモーションについては、ロケーションオフィスによるロケ支援を通じ、作品にゆかりのある地の紹介などを行っている。年明けには映画『室町無頼』が公開される

のに合わせ、ロケ地マップを用意している。各映像作品を中心に、全国のファンの皆さんに滋賀県を知っていただく場を提供し、滋賀県の認知度を上げていきたい。

■ 議題（３）シガリズム観光振興ビジョン第２期アクションプランについて

事務局より、シガリズム観光振興ビジョン第２期アクションプランについて説明。

（上田委員）

令和８年度に安土城築城 450 年を迎える。信長は安土城だけでなく、同時期に安土城を含めて４つの水城を作り、滋賀県全体を拠点として日本統一を進めた。その中の１つが大溝城であるが、認知度が低い。ただ非常に珍しい遺跡が残っており、安土城は内湖が埋め立てられて今は山城のようにになっているのに対し、大溝城は水城の様相をまだ残している。ぜひ安土城築城 450 年の際には、安土城だけでなく、大溝城、長浜城、坂本城も合わせて、全体としても PR をお願いしたい。大溝城がある近江高島の琵琶湖からは、真正面に安土が見える。まさにネットワークを構成したということが体感できる場所になっており、例えば４つの城を船で巡るなど、いろいろなことが考えられる。それに伴ってハード整備が必要な部分も出てくると思う。ぜひ現場の声を聞いていただきたい。

（河崎シガリズム推進室長）

戦国や城は推し活をされている方が多く、滋賀県の城は人気がある。大河ドラマ「豊臣兄弟！」の放送や安土城築城 450 年を迎える千載一遇のチャンスであるため、滋賀県を周遊できる企画を「推し」をテーマに立てたいと考えており、その中で城は大きな柱になる。いただいた御意見も踏まえながら取り組んでまいりたい。

（野村委員）

観光入込客数のうちのインバウンドシェアが非常に低い。大阪の場合は、昨年度のインバウンド消費額は過去最高の水準であり、宿泊や購買が加速している状況である。インバウンド受入環境整備は具体的にどのような整備をされるのか。

（河崎シガリズム推進室長）

観光事業者に限らず様々な方が、インバウンドのお客様をお迎えするにあたり必要な整備に対して、昨年度から補助を行っており、主にはホームページ改修やポケトーク導入などの多言語対応である。補助実績は順調だが、殺到する状況ではないため、これからも周知を進めてまいりたい。

（磯部委員）

米原市は長浜市や彦根市などの近隣市とも連携し、広域的に観光行政に取り組んでいるが、インバウンドは少し弱いよねと話している。強い円安環境である今、インバウンド誘客には絶好の機会であると認識しており、米原駅はいわゆるゴールデンルート上の新幹線駅である強みを活かせる。市が集まってできることの限界もあるため、県域で米原駅をさらに活用していただける取組を、今後もより強力にお願いしたい。また、インバウンドについて、県全体から湖北地域を見たときに、どのようなところを強みとして活かせるか、アドバイスをいただきたい。

(河崎シガリズム推進室長)

シンガポールや台湾、タイなどでは雪体験が人気であり、米原市にはそれに対応できるスキー場がある。特に都市型のスキー場は非常に珍しく、観光庁からも評価をいただいている。大阪から少し足を伸ばして米原市まで来て、スキーではなく、雪に触る体験をしていただけるのは、魅力の大きいコンテンツだと思う。今年、スノーリゾートに関する観光庁の補助金を、グランスノー奥伊吹とびわ湖バレイで取られている。今後もより連携しながら進めてまいりたい。また、長浜曳山まつりが有名だが、米原曳山まつりにも子ども歌舞伎がある。京都駅から少し足を延ばして見ていただけるコンテンツとして魅力的であり、インバウンドに向けてもう少し打ち出せないか、文化観光の1つの柱にできないかと考えている。米原市にも魅力あるところが多くあるので、県として連携しながら進めてまいりたい。

(古賀委員)

他府県の状況を見ても、やはり夜や朝にしかできない体験が宿泊につながる。寒いシーズンの朝型・夜型観光はなかなか難しい部分もあるかと思うが、今後の展開を伺いたい。

また、弊社は一次交通を担っており、二次交通の充実促進に大変興味がある。ここ滋賀でタクシー割引クーポンを発行しているが、その実績や今後の二次交通の展開をお聞かせ願いたい。

(河崎シガリズム推進室長)

朝型・夜型観光は京都でさえも弱いと言われている。例えばインバウンドの方はお食事された後に1時間くらいまで飲まれるが、京都にもなかなか飲めるところがなく、大阪まで戻られると聞く。本県もビューローやJTBと朝型・夜型のコンテンツを造成しており、例えば三井寺での朝の座禅体験や、比叡山延暦寺での丑三つ時の散策、高島の和蝋燭を使った宿体験といったコンテンツができないか検討しているところである。

二次交通については、例えばJRと連携し、駅リンクンなどのレンタサイクルを使った施策を今後も進めてまいりたい。また、日産自動車と連携し、県内をEVレンタカーで周遊すると割引されるマップを作るなど取り組んでいる。将来的には自動運転が実現すればありがたいが、できるところから進めているところである。

(片山ここ滋賀所長)

タクシー割引クーポンの昨年度の実績は 153 件であり、487 人にご利用いただいた。昨年度は湖東エリア、近江八幡辺りでの利用が多かったが、今年は長浜での利用が増えており、彦根や近江八幡、大津の辺りで均等にご利用いただいている。

(矢野委員)

じゃらんの旅行満足度ランキングで滋賀県は 41 位となっている。食べ物は 43 位、土産物は 45 位であり、滋賀県の魅力的なところがまだまだアピールしきれていないのではないかと。私は京都から滋賀に異動し 7 年が経つが、来てみると滋賀県はすごくよいところで、観光資源も魅力もおいしいものもたくさんある。しかしながら、それを PR しきれていないところが弱い点だと思うので、強化していただきたい。また、観光消費額についても、関西の他府県と比較すると 2 万円ほどの差がある。ホテル業でも単価のアップは必要だが、県でも単価が上がるような施策をしていただければと思う。

(河崎シガリズム推進室長)

全国的にはやはり滋賀県はあまり知られておらず、京都・大阪・愛知からの観光客が半分以上を占め、その方々は日帰りが多い。観光消費額単価を上げるには宿泊や長期滞在をしていただく必要があり、今まで PR が届かなかった東北や関東エリアからの誘客が大切だと考えている。JR のデスティネーションキャンペーンの誘致を進めると議会で知事から発表いただいているが、観光キャンペーンや大河ドラマ「豊臣兄弟！」の放送、安土城築城 450 年も契機に、全国への PR を今後大きく展開してまいりたい。観光産業の活性化には、いかに観光消費額を増やすかが大事だと考えている。いくらお客様にお越しいただいても、一銭も落ちなければ産業として成り立たず、持続可能性が担保できない。楽天トラベルで販売しているシガリズム体験宿泊プランや、JTB と共に作った 200 のコンテンツなどを PR しながら、お金を使っただけの素地を作りたい。多くの方にお越しいただくと、逆に地域の方にハレーションが起こってしまう可能性が大いにあるため、適切な人数のお客様に適切にお金を使ってもらい、適切に地域が回っていく、持続可能性が高い観光に取り組んでまいりたい。

(廣岡委員)

観光 DMP 構築や観光 DX 人材の育成は観光庁の施策でもよくあるが、どのようなものかよくわからない。デジタル化が観光産業の収益力につながるのわかるが、具体的にイメージできない部分が多い。DMP はどのような形で作るのか、どのような人材が開発するのか。そして観光 DX 人材の育成についても、どのようなプロセスで育成し、観光 DX 人材とは何なのかが見えてこない。DMP のようなシステムは、これを構築する事業者に丸投げしてで

きましたということは可能だと思うが、実際に現場の観光事業者が DMP を活かせるかは甚だ疑問である。例えば城崎でもそのような動きがあるようだが、あまり成功事例を聞かないし、具体的な絵が見えてこない。アクションプランに入れる際には、漠然としたことではなく、具体的にどうするかを書いていただければよいと思う。何か構想をお持ちであればお聞かせいただきたい。

(北川係長)

観光 DMP 構築については、びわこビジターズビューローの約 700 会員が見られるデータプラットフォームを作りたい。具体的には、現在は半年に 1 度各施設から報告いただき、年 1 回公表している観光入込客統計調査をシステム化し、少なくとも月次で入込客数のデータを入力いただくことによって、県・市町・各施設の今の観光動向や過去との比較を可視化する。加えて、観光庁や本県が保有する観光消費額単価等のアンケート調査の結果等、あらゆる観光に係るデータをシステムに搭載し、各観光事業者にデータに触れていただき、今後の施策に活かしていただけるようなプラットフォームを作りたいと考えているところである。

(河崎シガリズム推進室長)

観光人材育成については、この 3 年間、地域の観光連盟・観光協会や市町の職員向けに基礎講座や応用講座を開き、地域の核となる方の人材育成や、通訳案内士の研修などを進めてきた。観光 DX 人材の育成についても、地域の観光連盟・観光協会や市町の職員、あるいは観光事業者にデータを使えるようになっていただこうと考えている。今まで培ってきた素地をもとに、実際に動いていただく地域の観光協会や観光事業者の方々に、DX を使ってどのように観光をよりよいものに変えていけるのかを考えていただけるスキームにしたい。

(江川オブザーバー)

全国旅行業協会は中小の旅行会社の集まりであり、昔は 5,600 者ほどあった会員が、コロナの影響で今は 5,400 者ほどになっている。滋賀県支部としては、メール等を使い、会員に対してシガリズムの取組を発信していく役割があると改めて感じた。オーバーツーリズムになると地域の方からの反発があるのではないかという心配もあるが、令和 8 年度は安土城築城 450 年や大河ドラマ「豊臣兄弟！」など話題が盛りだくさんある。メディアを大いに利用しつつ、旅行業協会等もうまく利用していただければ、さらに全国に知っていただけるのではないかと思う。びわこビジターズビューローとも協力しながら、そのような役割に徹したい。

(後藤オブザーバー)

滋賀県には歴史・文化を感じられる観光施設が多くある。これからの 3 年間はイベントが

目白押しだが、有名な観光地を中心に、できるだけ広域を周遊していただくことも考えて施策を進めていただきたい。琵琶湖の周りは平坦なところが多く、レンタサイクルが観光客にとって二次交通の一部になっているため、さらに広めていただければと思う。オーバーツーリズムについては、SNS で拡散されると一気に観光客が押し寄せることもあるが、住民の許容もうまく高めながら、観光誘客を進めていただきたい。サイクルツーリズムに加え、滋賀県ではアクティビティや文化体験もできるため、アドベンチャーツーリズムといった言葉も使いながら、うまくアクションプランを作成いただければと思う。

また、関西空港の国際線の到着ロビーに、DMO や自治体が各地域を PR できる観光ブースを設けている。3 月末までは枠が埋まっているが、4 月以降、万博期間中もブースは開設しているため、活用して PR していただければと思う。

(西川オブザーバー)

私どもは各事業者と一緒に頑張る立場であり、本日の委員の皆さんの貴重な意見をヒントにしながら、ますます県の観光振興ビジョンの目標達成に向けて頑張ってまいりたい。ビューローが頑張らなければなかなか目標数値も上がらないと思っているので、皆さんの力も借りながら頑張ってまいりたい。

■ 上田観光振興局長挨拶

<閉会>